

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 101 平成29年2月号

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です。

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6階

TEL : 092-733-5707 e-mail : library@urc.or.jp

タイトルバック：琴性根氏 (BDI) 撮影

目次

◆URC資料室ニュース

- ①第4回ナレッジコミュニティ「福博の街 花を飾っておもてなし～花の美しい都市をめざして～」開催予告・1
- ②アジア都市景観賞ポスター展開催中・1

◆URCニュース

- ①韓国・慶北大学ランドスケープ研究室の学生の皆様に講

義をしました。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

②国際研修受け入れ報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

◆今月のおすすめ「107年の謎ー普サン迫間別邸の調査記録」・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

◆URCメディア紹介情報・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

◆「資料速報 平成29年1月受入分」・・・・・・・・ 別添

◆URC資料室ニュース

①第4回ナレッジコミュニティ「福博の街 花を飾っておもてなし～花の美しい都市をめざして～」を開催します！

3月21日火曜日13:00～14:30、福岡市役所1階の多目的スペースにおいて、本年度第4回目のナレッジコミュニティを行います。今回は、URC市民研究員受入事業がきっかけで発足した「福博：花まち研究会」の活動報告とワークショップです。講師は同会事務局長の藤原正教さんと会員の山本祐介さんで、「世界で最も住みやすい都市にも挙げられ、国内外から多くの観光客が訪れる福岡市。都市として美しいことが求められています。その美しい都市景観

の形成に、花は大きな役割を果たします。

では、福岡市は、本当に花が美しい都市でしょうか。

福博の街の40箇所の花壇を15



ヶ月間観測調査した結果を報告し、市民、企業、行政の共働による花のまちづくり（フラワーシップ）をご参加の皆さまと一緒に考えます。お知恵をお貸しください。」と呼ばけられています。

あわせて、「福博：花まち研究会」5年間の活動を振り返るポスター展(当日10:00～16:30予定)を開催します。

実際に花の活動をされている方や、ご関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

写真出典：福博：花まち研究会ご提供 (山崎三枝 司書)



②アジア都市景観賞 2016 ポスター展 開催中！

10月29日金曜日と30日土曜日の両日で、今年で7回目を迎えた「アジア都市景観賞」の授賞式を中国 寧夏回族自治区 銀川市(2014年受賞都市)にて開催しました。

今年は応募総数41案件のうち7カ国15件が受賞し、中国・韓国・ミャンマー・ベトナム・バングラデシュと国内は愛媛県松山市・石川県小松市・大分県玖珠町・北海道東川町の受賞関係者、並びに中国国内・外国諸国の招待客な

ど約500名超の参加者が銀川に集い、地元の方々の歓迎ムードが盛り上がる中、複数のテレビや新聞でも取り上げられるなど、大盛況のうちに終えることができました。





都市を中心にポスター展(上写真)を行い、12月1日には、

その後、11月21日から12月5日までアクロス福岡3階くさいひろばでこれまで受賞した日本の

唐寅主任研究員が、ハビタットひろばで「アジア都市景観賞の歩み」というテーマで、この賞が、アジアの人々にとって幸せな生活環境の実現を目指して、単に都市景観が美しいという視点だけでなく、自然や歴史環境の保全や市民参加の視点も交えて講演しました。

唐寅主任研究員の講演資料や2016年受賞都市のポスターを日本語の解説と並べて、資料室入り口横に展示していますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。

写真出典：URC撮影(山崎三枝 司書)

◆URCニュース

①韓国・慶北大学ランドスケープ研究室の学生の皆様に講義をしました。!

1月13日金曜日、大邱広域市を拠点とする韓国の国立大学、慶北大学 (Kyungpook National University) 鄭泰烈 (Jung Tae-Yeol) 教授の引率のもと、ランドスケープ研究室の6名の学生様がURCにご来所されました。ランドスケープ研究室のご一行は、昨年末より大学のプログラムで1か月間福岡に滞在し、現地調査やデザイン事務所への訪問を通じて、日本の都市景観について学ばれました。そのなかで、私たちURCの取り組みについて高い関心を持たれ、このたび福岡の環境政策とアジア都市景観賞を題材とする講義を提供させていただきました。

今回は講師として、URCアジア交流チームの李英雄氏が登壇しました。李さんは、アジア各地からの福岡視察研修およびアジア都市景観賞を担当しています。韓国語を母語とされるため、今回の講義はすべて韓国語で行いました。約1時間の講義では、学生さんたちが講師の話に熱心に聞



きいるとともに、終了後も活発な議論が行われました。

URCでは、英語のみならず、韓国語や中国語も堪能なスタッフに恵まれており、その強みを活かしながら、今後もグローバルな知の交流拠点を目指した活動を積極的に進めてまいりたいと思います。

写真出典：URC撮影(久保隆行 情報戦略室長・上席主任研究員)

②国際研修受け入れ報告

その1 「さくらサイエンスプラン」で中国の高校生を受け入れました!!

当研究所が1月15日(日曜日)～22日(日曜日)の日程で、中国江西省から優秀な高校生と引率者計16名を福岡市に招聘し、大学研究室や環境関連の施設を訪問してもらいました。その狙いは、中国の高校生たちに、日本の大学の進んだ研究や教育を学んでいただくと同時に、留学生たちの活躍ぶりを見学することによって、日本への理解を深め、日本留学へのモチベーションの向上につなげることにあります。

福岡市役所(下写真)と中国総領事館へ表敬訪問した後、久留米大学医学部で最先端のがん治療講義を受け、九州大学水素エネルギー国際研究センターで水素自動車に試乗、福岡工業大学で先端測量を体験、西日本工業

大学でグラフィックデザイン教育現場を見学しました。

また、北九州環境ミュージアムや福岡市民防災センターなども見学して、より身近な環境のなかで人間と自然のかかわり方を学びました。

上海から遠く離れた内陸から来た高校生たちにとって、初めて見る外国のすべてが新鮮に映り、



上 久留米大学のドクターヘリの前で
下 北九州環境ミュージアムにて





彼らが若者らしく大はしゃぎすると同時に、大変なカルチャーショックも受けたようです。

今回の研修旅行が彼らのこれからの

成長の糧となることを祈ると同時に、彼らがこれから日中の懸け橋になることも大いに期待したいと思います。

写真出典:URC 撮影
(唐寅主任研究員)



写真説明

左上 水素自動車試乗の後

左 福岡工業大学附属城東高校にて

右上 太宰府天満宮にて

右 福岡空港博多山笠の前で



その2 JICA 視察団が福岡市視察研修に参加しました！！



西部中田埋立場

「質の高いインフラ投資に向けた事例調査」をテーマとし、先進のごみ埋立技術である福岡方式を採用した「西部中田埋立場」と「汚水処理場」、そして、大渴水を教訓に整備した海水を淡水化する「海水淡水化センター」、上水道を管理するための「水管理センター」、また、下水処理によ



西部汚水処理場

1月30日月曜日
～31日火曜日の
日程でJICA視察
団（グアテマラ他
8カ国、20名）が
来福し、福岡市視
察研修を実施し
ました。平成26
年以来4回目とな
ります。今回は、

「質の高いインフラ投資に向けた事例調査」をテーマとし、先進のごみ埋立技術である福岡方式を採用した「西部中田埋立場」と「汚水処理場」、そして、大渴水を教訓に整備した海水を淡水化する「海水淡水化センター」、上水道を管理するための「水管理センター」、また、下水処理によ

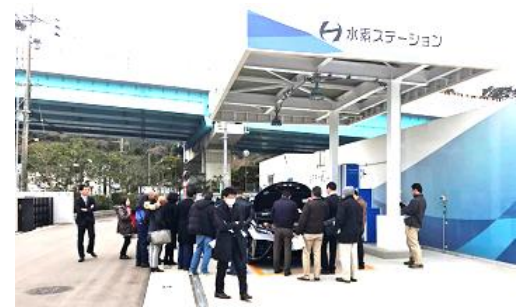
「質の高いインフラ投資に向けた事例調査」をテーマとし、先進のごみ埋立技術である福岡方式を採用した「西部中田埋立場」と「汚水処理場」、そして、大渴水を教訓に整備した海水を淡水化する「海水淡水化センター」、上水道を管理するための「水管理センター」、また、下水処理によ

臭いが無いことにとっても驚いた」、「下水を処理して車を走らせる発想が素晴らしい」などの声が上がっていました。

今回の福岡市視察研修を通して、日本の水・衛生施設の優れた技術や取組み事例が、対象国のインフラ整備の参考になることを期待します。



海水淡水化センター



水素ステーション



水管理センター

写真出典:URC撮影 (李英雄 国際視察研修担当)

◆今月のおすすめ 「107年の謎—プサン迫間別邸の調査記録」 木津宗詮著 現代企画室 2017.1.31 発行



この本は、本号「NO. 97 平成 28 年 9 月号」に掲載した「特別寄稿 釜山に残る日本建築「東萊(とんね)別荘(迫間房太郎別邸)」調査団に参加しました。—きっかけと出会いに感謝!—(小牧重己氏著)」で紹介した調査結果がまとめられたものです。

本書プロローグから「はじまり」の冒頭を紹介させていただきます。

「そのきっかけは、平成二十年(二〇〇八)六月、当時、福岡アジア都市研究所の研究員であった小牧重己氏の「釜山における日本建築物等の利用実態と評価に関する研究—プサンの日本建築物等と観光資源化への期待—」という論文に出会ったことだった。

そこには、明治から戦中まで活躍した大実業家、迫間房太郎が郊外の温泉場として有名な東萊に建てた別邸のことが書かれており、現在は「東萊別荘という名の官廷料理のレストランになっているということだった。その建物というのが何を隠そう、我が木津家三代事斎宗泉(いっさいそうせん)が明治末期に設計したもので、その記録も残っていることから、とても興味をそそられる出会いだったのだ。」以下省略

平成 20 年当時、小牧さんが主テーマ「福岡・釜山圏における日常交流圏の形成に関する研究」を進めるかわり、本来のご専門の建築に興味をもたれ同研究報告書を

まとめられてのが、すべてのきっかけとなったようです。

本書の中でも、URC の名前がたびたび登場し嬉しい限りです。また、小牧さんに紹介した徐宝成(ソボウソン)さんが、「血を騒がせたもの：調査員の証言」の章で、著者に続く 2 番目にコメントを掲載されているところを見ると、改めてその役割の大きさを実感しました。ちなみに、小牧さんは 4 番目(19 人中)です。

本書は、建物としての東萊別荘、庭園の調査報告が中心で、写真や図面を多用していますが、建設当時の時代背景やその後、設計者である木津事斎宗泉氏はもちろん、所有者である迫間房太郎氏についても、子孫の方を探しだし、ヒアリングを重ね詳しく書かれており、読み物としても面白く読めるものとしてお勧めします。

ただ、残念なのは文中、徐宝成さんをはじめ韓国の方の名前の漢字表記のルビが日本語読みになっていたこと。本来の韓国語読みで表記していただきたかったと思いました。

慰安婦少女像の設置をめぐる再び複雑化する、日韓関係ですが、また再び、ソさんが活躍する舞台ができることを、心から願っています。

(山崎三枝 司書)



◆URC メディア紹介情報—最近 1 か月の情報を中心に—

◎新聞

(2017/1/24 日本経済新聞 朝刊 5p)

医療情報共有へ実験 東京海上 ブロックチェーン活用
実験は FDC と協力する。

(2017/1/10 朝日新聞/山形県 朝刊 27p)

小正月行事、地域のぬくもり触れる 西川で大学生ら体験

URC OB 山本匡毅さん(現在:山形大学人文学部准教授)のゼミ生らが行事に協力

(2017/1/9 熊本日日新聞 朝刊 13p)

小国町・坂本善三美術館で美術家の藤さんのお宝語る
市民研究員 OB 藤浩志さんがコメント

(2017/1/8 読売新聞 朝刊 31p)

街も港も福岡一新 アジアの中核へ整備進む 興す 6
第 I 部 潜在力

野田順康特別研究員が博多港の外国人受け入れ環境
に苦言

(2017/1/5 日刊建設工業新聞 9p)

年頭所感/松山市長・野志克仁/幸せ実感都市まつやま
の実現

アジア都市景観賞受賞都市として紹介

◎雑誌

(2017/1/1 九州マーケティング・アイズ 創刊 20 周年号 vol.80.)

20~22p アジアと九州の今 福岡→バンコク→ホーチミン→明るい未来?

URC OB 山本公平さんが執筆

(2017/1/1 市政 774 号.)

3p とっておき! 美しい都市の景観「道後温泉本館」松山市(愛媛県)建築から 120 年がたつ公衆浴場 新たな魅力を国内外に発信

アジア都市景観賞受賞を紹介

(2016/11/1 月刊はかた 11 Vol.336)

48~49p 私のプチ自慢 Vol.32

「日本中、そして海外をロードバイクで疾走しています」
市民研究員 OB 吉原勝己さんが紹介される。

◎

(2017/1 毎週金曜日 ローカルラジオ放送こみてん 18:00~18:25)

スポガで Ready Bowl!! 市民研究員 OB 吉田勝さんがパーソナリティを務める。